

常任委員会

市の事務に関する調査及び議案・請願等の審査を行うための常設の委員会です。

本会議で付託された決算認定や条例制定などの案件等について、

3つの常任委員会で審査をしました。議案については、すべて原案どおり可決・認定し、請願については継続審査、陳情については採択としました。

審査の概要と、主な質疑（定例会最終日の委員長報告から抜粋）については、次のとおりです。

総務文教常任委員会

糸魚川市保育実施条例の制定等14件、補正予算2件、決算認定4件、その他1件の合計21件を審査しました。また、「市民会館の管理運営方針について」の所管事項調査を行っています。

○職員人件費について（一般会計歳入歳出決算認定）

質問 合併後10年を迎え、100人減を目標にしてきたが、97人減員となっている。正規職員は減っているものの、臨時職員は逆に169人から292人へと123人増となっている。もう少し事務改善をしながら行政改革に取り組む必要があるのではないか。今後の方針は。

答弁 状況を見ながら、さらに削減していく予定であり、特に平成29年度以降については、財政状況、事業の状況を勘案しながら、新たな目標設定をしなければならぬと考えている。行政サービスは維持していかなければならないだけに、職員を単に減員するのではなく、業務内容の整理、また、民間委託、指定管理などを含め、職場環境にも配慮しながら総合的に考えていきたい。

○糸魚川市博物館条例の一部を改正する条例の制定について

質問 今回の改定では、高校生以下を無料にするということであるが、それによる減収額はいくらか。また、リニューアルすることによ

り、入館者増に伴う収入増も考えられるだけに、無料にするということに疑問が残る。素晴らしい施設であるだけに収益面について工夫がほしい。また、誘客するための効果的な宣伝にも心掛けてほしい。

答弁 高校生以下を無料にする減収額は、167万円程度の見込みとなるが、高校生以下を無料にすることにより、来館者増、県外からの入館誘導等、市として交流人口拡大を図りたいと考えている。また、収益面においては、土産品の開発、品揃えなど工夫し、新たな商品開発も検討していきたい。



フォッサマグナミュージアム
リニューアル後の外観（イメージ）

建設産業常任委員会

北陸新幹線糸魚川駅高架下施設整備工事（建築）の変更契約の締結について、市道の認定について、補正予算1件、決算認定6件の合計9件を審査しました。また、「処理場統合計画（川崎・徳仙・筒石地区）の見直しについて」の所管事項調査を行っています。

○高速バス確保対策補助金について（一般会計歳入歳出決算認定）

質問 補助対象となる赤字額が平成24年度に比べて膨れているが、利用率、課題等は。

答弁 平成25年度の実績では、営業損失として1,335万2千円であるが、利用人数が大きく変わったということよりも、ガソリン代の高騰が大きく影響している。バスの老朽化による経費の増加もある。